

# 新政あいち 県議会 県政レポート

編集 新政あいち県議団(県政レポート編集委員会)  
〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1-2 愛知県庁内  
代表電話 052-961-2111 FAX. 052-961-3766  
HP: <https://shinsei-aichi-kengidan.com/>

発行 県議会議員 松本まもる 事務所  
〒458-0824 名古屋市緑区鳴海町有松裏7-19(名鉄有松駅北すぐ)  
TEL. 052-825-4155 FAX. 052-825-4156

2020年秋号 愛知県9月定例議会特集

本レポートは、政務活動費の広報費を一部充当して作製・配布しています。  
ご意見・ご要望をお寄せください。

## 持続可能な社会の実現を 目指す輝くあいち

令和2年愛知県議会9月定例議会は9月18日より10月13日まで開かれ、一般会計補正予算の総額804億4,072万余円、特別会計予算総額2,900万円や条例の制定や条例の一部改正など36議案を承認可決しました。

一般会計補正予算の中で新型コロナウイルスへの対応として、感染症対策では、PCR検査体制の拡充や中等症患者及び軽症の高齢者を集中的に受け入れる専門病院の開設など、患者を受け入れる医療機関を支援する費用が含まれています。

経済対策では、中小企業が取り組む新サービス・新製品の開発やプレミアム商品券発行事業支援及び事業者の資金繰りに対応する実質無利子・無担保・保証料ゼロの融資枠の拡大などの支援を行います。

また、学校教育では、県立高等学校及び特別支援学校の衛生環境の整備並びに新たな時代に相応しい教育の実現を目指すICT

環境の整備、学校給食に県産水産物食材の提供をします。さらに、「みかわ牛」のブランド力強化のほか、畜産物流通体制の支援や農作業の省力化設備整備を促進するなど、『愛知のすべての産業』がこの危機を乗り越えるための支援費用が計上されています。



愛知県議会議員  
(緑区選出)

松本まもる

### 「新しい生活様式の中で」

暑かった夏もようやく過ぎ去り、秋も深まって来ました。

今年の今頃は、猛威を振るった台風19号を中心に大雨などの自然災害に見舞われ、多くの尊い命が奪われました。ところが令和2年に入るや否や、「新型コロナウイルス感染症」が大流行し、地球規模で歴史を揺るがす事態となつてしまい、今現在も終息の出口が見えていません。「密を避ける」名のもとに、様々な経済活動をはじめ、学校、地域活動、イベント等も軒並み中止を余儀なくされ、それに伴い観光事業やそれに関連する電車やバスをはじめとした交通事業者、旅館、ホテル、またお土産や飲食を提供する施設等、様々な関連経済がストップしました。

「新しい生活様式」の名のもと、我々はコロナと共存し経済を立て直す選択を余儀なくされました。無駄な消費は必要ありませんが、このコロナ禍の中、苦しんで踏ん張っている多くの皆さんの応援団となつて私たちと一緒に「チーム愛知」を支えていただく事を切にお願い致します。



# 新政あいち県議団代表質問から

(9月25日、本会議)



長江正成幹事長  
(瀬戸市、4期)

## 主な質問 1

### 新型コロナウイルス対策

**Q** 県は、季節性インフルエンザの流行に備え、外来診療の医療機関をどのように支援しているのか問う。

**知事** 発熱患者等を他の患者と分けて外来診療や検査を行う地域の医療機関については、県が指定することにより、その体制確保に必要な費用を国が補助する制度が10月中にも開始される。県も早急に県医師会と協議を進め、対応可能な地域の医療機関を速やかに指定していく。また、外来診療を担う医療機関が安心して患者に対応できるように積極的に支援を行い、発熱患者が速やかに必要な診療、検査を受けられる医療体制を提供していく。

## 主な質問 2

### コロナ専門病院について

**Q** 開設される新型コロナウイルス感染症専門病院により県内の入院医療機関への負担軽減をどのように図っていくのか問う。

**知事** 現在の岡崎市立愛知病院を活用し、中等症患者などを集中的に受け入れる1000床の専門病院を10月15日に開設した。これにより、主に重症患者を受け入れる大学病院などと役割を分担し、医療機関の負担軽減を図っていく。引き続き

# 新政あいち県議団一般質問から

質問録画は

愛知県議会

検索

## 県営大高緑地公園の活性化について



議員(緑区、1期)は、開業から50年を迎えた大高緑地公園の老朽化が進み、特にプールの内、二つは何年も前から漏水等で休止中、低学年、幼児用のプー

ルのみの(ABプール)営業で公園全体の人気とは裏腹に来場者は減少傾向である。今回のコロナ禍でその傾向は続き、来年以降もこのままでは活性化が見込めない。しかし、県民に安価で提供される県営公園内のプールや水場広場等の存在は不可欠であり、猛暑・酷暑対策を含めた新しい水場広場の

## 少子高齢化問題への対策強化を



議員(豊田市、3期)は、少子化対策と高齢社会における地域包括ケアシステムの構築につ

いて質問を行い、特に少子化対策については、昨年の国内出生数が約86万5千人(合計特殊出生率1.36)と過去最少を記録し、「86万ショック」とも呼ぶべき状況にある事から、結婚・妊娠&出産・子育てと、ライフイベント毎の支援の充実を訴え、今後の県の取り組み方針を質した。質問に対し県は、子育て期の支援として待機児童解消を目指し、今後5年間で約13,000人分の保育の受け皿を整備するとともに、希望する方が子どもを持てる環境づくりを推進するため、働き方改革やワーク・ライフ・バランスの推進などに

検討もすべきではと質した。

都市整備局長からは、ここ近年の猛暑・酷暑対策を含めた新しい水場の創出は必要だと考える。新しい形での県民から愛される親水性のある、プールに代わる水場広場の在り方も検討しながら、新しい施設の導入を検討していくとの前向きな答弁が出された。

## アフターコロナを見据えた観光産業の回復を



議員(豊田市、1期)は、コロナ禍により、観光産業が大きなダメージを受けている中、

多くの来訪者と経済効果が見込まれるジブリパークについて、県内広域で恩恵を享受するため、どのように関係者と連携していくのか、また、愛知県が持っている多くの観光資源をどのように国内外に情報発信していくか質した。

質問に対し県は、愛知デステイネーションキャンペーン(自治体や地元の観光事業者等が共同で実施する大型観光キャンペーン)で築いたネットワークを継承・発展させた「愛知観光プラットフォーム」という市町村や地域の観光関係団体及び事業者等との連携の枠組みを活用し、ジブリ

## コロナ禍におけるインフルエンザ対策について



議員(港区、2期)は、新型コロナウイルス感染症の情勢を勘案し、同じ症状が見られ

やすいインフルエンザ対策について質した。県に対し先ずWHOの指針を踏まえ、妊娠中の女性、6ヶ月から9ヶ月の子どもへのワクチン接種に助成をするよう求めたが、高齢者等の定期接種を助成するにとどまった。次にインフルエンザワクチンの供給不足・供給偏在が生じないよう行政として調整するよう求め、県は医薬品の卸売業者や医療機関の協力を得てインフルエンザワクチンの安定供給に努めると答弁した。最後にインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行を見据え、県として必要な検査体



主な質問 3

### 県立学校のICT整備

Q 端末を合計18,000台整備しても、全生徒数の12万人分には足りないが、今後どのような方針で整備を進めるのか問う。

【教育長】 今後の県立高等学校の生徒用端末の整備の方針は、生徒個人所有の端末を授業で活用する、BYOD（ブリングユーア Own デバイス）を基本に考える。今年度、ICTモデル校10校を中心にBYODの試行を行い、効果と課題を検証した上で、来年度以降、端末を持っている生徒は、それを授業で使用し、持っていない生徒には、端末を貸し出すなど、BYODをベースとしたICTの活用方法を検討していく。

主な質問 4

### スタートアップ支援

Q 内閣府から「スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市」に認定されたことをきっかけにして、人材の輩出・育成に今後どのように取り組むのか問う。

【知事】 起業家予備軍である大学生等を対象とする「スタートアップキャンプ」を、昨年度より内容を充実させ、9月から開始した。また、今年度から新たに、世界トップクラスの経営大学院であるフランスのINSEADによる愛知向けにカスタマイズした人材育成講座を10月から開始する。さらに、アメリカ・テキサス大学によるスタートアップ支援機関のマネージャーを対象とする研修を9月末から実施する。

した。

### コロナ禍の子どもたちにも寄り添い



【おたけりえ 議員（豊川市、2期）は、県庁や出先機関から遠い地区に住む住民へのサービス向上

のための行政手続き、研修やセミナー・相談のオンライン化と、スクールメリットを活かす市町村と共同したICT利活用について質した。  
県は、サービス管理者研修や子育て支援員研修などニーズの高い研修の一部をオンライン化する

援するとの回答を得た。

るとともに、県内への移住を促進するため移住相談をオンラインに対応すると答弁した。市町村との共同については、「AIを活用した総合案内サービス」や「AIOCR」による業務効率化等に取り組みと答弁した。コロナ禍の子どもたちへの支援については、県は、心のケアのためのスクールカウンセラー等の増員、フールドパントリーへの支援拡大、県立大学生が遠隔授業で思い描いていた学生生活が送れていないことに対して、対面授業の割合を拡大すると答弁した。



【高木ひろし 議員（瑞穂区、5期）は、県教委の障害者雇用率問題と、部落差別に関する県民意識調査

などについて県の見解を質した。県教委の障害者雇用率は、2年前の水増し発覚以来、法定2.4%に対して半分以下という全国ワーストワンが続いている。教員免許をもつ障害者の少なさを理由に「当面

### 県教委の障害者雇用、3年連続で全国最低

の改善は困難」とする。県教委の姿勢について、議員は「高等教育を保障してこなかった教育委員会自身の責任」と厳しく批判し、エレベーター設置など県立高校の計画的

ベータ化や障生徒の高校受検への特別配慮を強く求めた。部落差別については、結婚や就職における隠れた差別の事例を挙げ、県の取り組み強化を求めた。県民文化局長は過去4回実施した県民意識調査の分析を紹介し、差別につながる身元調査を肯定する回答が増加したり、相手が部落出身の場合に結婚に反対するという意識が根強く残っていることを課題として挙げた。

### カジノ誘致ではなくコロナ対策を



【西川厚志 議員（中川区、5期）は、IR（カジノ施設を含む統合型リゾート）整備を推進する国の

動きに呼应し、県が進める中部国際空港島へのIR誘致検討について、反対の立場から今はコロナ対策を最優先すべきと訴えるところにも、コロナによる全国的なIR事業者の投資意欲の減退、国が策定すべき基本方針の再三の延期、IR担当副大臣の収賄による汚職事件の影響等を踏まえた県の今後の考えを質した。  
県は既に国内外を併せて13者のIR関連事業者が関心を寄せ、コロナ禍にあっても撤退の意向を示しておらず、県も自ら断念の意思は無いことを表明した。西川議員は2年前までは知事もカジノ反対の姿勢であったことにも触れ、県民の意向調査の上での誘致検討を強く求めた。2025年技能五輪国際大会の愛知県誘致が叶った際には国際展示場が大会会場となることから、現行計画（2024年度からの同敷地内へのIR施設建設も可）との矛盾も追及したが、明確な答弁は得られなかった。



# 松本まもる 本会議 一般質問

## (眼の健康について)

### 1 生活習慣関連調査に眼の項目をとりいれるよう要望する

**愛知県の答え** パソコンやスマートフォンの普及に伴い、今後ますます眼への負担が増大していくことが懸念されますので、生活習慣と眼への負担との関連を把握していくことは重要であります。今後実施する生活習慣関連調査において、眼に関する項目も加えることとし、その結果を次期「都道府県健康増進計画」の策定に活用してまいります。

### 2 緑内障等、早期発見の為の検診を各市町村の導入を促すよう要望

**愛知県の答え** 県としましては、まずは眼の疾患の予防や早期発見・早期治療を推進するため、生活習慣の改善や眼の疾患に関する情報を内容としたウェブページを作成し県民の皆様へ眼の健康の重要性をしっかりと周知してまいります。また眼科検診については、現在、国において、導入にあたっての検診方法や費用対効果などの調査・研究が進められており、その動向を注視しつつ、市町村における先進事例を参考に、そのあり方について研究してまいります。



議場でボードを使用した一般質問

**緑内障とは…** 眼圧が上昇することで視神経に異常が起こり、視力や視野の障害が引き起こされる病気です。緑内障の進行はゆっくりであるために自覚症状に乏しいことがほとんどです。2017年



緑内障における視野の変化 (イメージ)

※あくまでもイメージですので不安な方は眼科での受診をおすすめします。

現在の医療では、破壊された視神経を回復する方法は確立されていませんが、早期に発見し治療を開始することで緑内障の進行を抑え、失明にいたる危険性を回避できます。緑内障では、あまりはっきりとした初期症状が現れないことがほとんどです。最初に自覚される症状としては、みえる範囲が狭くなり視野障害や視野の一部だけがみえないといった暗点の出現が挙げられます。このような症状は非常にゆっくりと進行するために気がつきにくいといわれています。

## (県営都市公園の老朽化対策と今後の活性化について)

### 1 県営都市公園における施設の老朽化対策と活性化に向けた取組

**愛知県の答え** 公園施設の老朽化対策については、長寿命化計画を策定し、利用者の安全・安心を第一に、施設の種類ごとに定期的な点検を実施したうえで、利用頻度や利用者のニーズ、社会情勢を踏まえ、施設の見直しも併せて検討してまいります。

大高緑地公園につきましては、施設の老朽化に対応するため、園路の補修や遊具等の更新、トイレの洋式化を順次進めております。現在は、若草山の芝生広場において、大規模イベントで活用しやすい平坦な広場の拡大や人工芝の設置、休憩所の建て替えなどのリニューアル工事を行っているところであります。



現在の大高緑地公園児童用プール